

秋田市ホームページで市長の動向や記者会見の内容などをお伝えしています。
<http://www.city.akita.akita.jp/>

市長のほっぺ コラム

市長 佐竹敬久



8月30日の秋田市総合防災訓練で

時が進むのは早いものです。大豪雪と慌てふためいていたと思つたら、連日の猛暑、そしていつの間にか高い空と秋風の季節を迎えました。そんな、こんなうちに、間もなく冬支度です。

ところで、四季の区分が明確な日本では、それを当然のことと受け止めております。しかし、地球上で季節による変化が全く見られないところはないものの、日本ほど明確なところはなく、ましてや冬と夏とで極端に異なる北日本のようなところは、まれではないかと思えます。

そんな北国に住んでいることは、考えようでは贅沢な生き方ともいえませんが、多様な資源を有し幅広い価値観を持つことにもつながります。

四国や九州など南国の市長さんに、雪の大変さを話しますと、台風などの風水害の被害に比べればましではないかと言われます。平地が少なく急峻な地形にも家を建てざるを得ない地域で毎年繰り返される洪水や土砂崩れによる人命と家屋の大きな被害をみますと、確かに大雪による被

害の比ではありません。

昨年、ある市長さんから、一か月の間に三回も大型台風に見舞われ、作業服の着詰めだったという話を聞きました。家の中に流れ込んだ泥をようやく掃き出した矢先に、再び床上浸水、さらにその後にもとなれば、励ましの言葉も出ず、精も根も尽き果てたということでした。

私たちは、何となく雪国に住んでいることを損な役回りだと思っっている節があります。しかし、日本の中で秋田こそが台風の襲来も少ないし、多くの人命や家屋が失われるような大災害に見舞われることが最も少な



みずみずしい実りの秋を迎えました

い地域です。もちろん、災いは忘れた頃にやってくる、日ごろの災害への備えは大切なことです。

何かにつけ、秋田であることをマイナスと捉えがちな風潮がありますが、一か月に三回も床上浸水の被害を受けても歯を食いしばって頑張る南国の地の人の思いに比べれば、いかに恵まれているでしょうか。

まずは、自分のふるさとに自信を持つことが第一歩です。隣がこうだ、向かいがどうだと内輪のことにばかり気をとられず、ましてや足引つ張りを慎み、もっと外に目を向ければ秋田の良さを広げることができます。

秋篠宮様と紀子様ご間に親王様が誕生されました。まさに瑞穂の国にとっては意義深い国民的慶事です。

悠仁親王殿下には、何よりもお健やかなご成長をお祈り申し上げます。もちろん、瑞穂の国の代表格は、私たちの秋田です。

絆^{きずな}深める友好のトライアングル

常陸太田市・秋田市・仙北市 三市連携交流



八月三日、中通小学校の姉妹校となつて
いる常陸太田市立佐竹小学校の児童
が秋田市を訪れ、郷土芸能の「天神
やし」を披露してくれました

問い合わせ
企画調整課
国際交流担当
tel(866)2033

約四百年前、常陸国を治めていた佐竹氏が
出羽秋田・仙北へ移り住んで以来、両地域
は密接な有縁関係のもと、その絆を深めてき
ました。昭和五十二年、常陸太田市と秋田市
が姉妹都市提携を結び、平成十年から旧金砂
郷町(現常陸太田市)と旧角館町(現仙北市)の
間では有縁友好交流が続けられてきました。
常陸太田市は平成十六年十二月に旧金砂郷
町を含む一町二村と合併し、旧角館町は平成
十七年九月に旧田沢湖町、旧西木村と合併し
て仙北市となり、行政の枠組みは大きく変わ
りました。
市町村合併を経た常陸太田市、秋田市、仙
北市は、これまでの有縁友好関係をもとに三
市が連携し、文化や観光、経済などの分野で、
さらに交流を進めていくことにしています。
今後は、来年八月
に秋田市で予定され
ている三市連携交流
の調印式にむけて、
準備を進めていきま
す。



仙北市角館町・武家屋敷の枝垂桜

希望される事業所に 「広報あきた」を お届けします！

問い合わせ
広報課
tel(866)2034



広報あきたの発行は毎月1日と16日



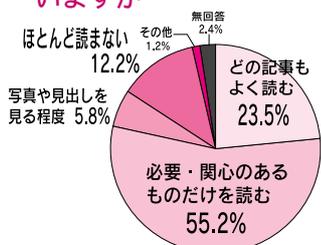
市では、市の広報紙である「広
報あきた」を毎月1日と16日に発
行し、市政情報や催し、季節の話
題などを市民のみなさんにお知
せしています。
広報あきたは市内の全家庭に配
布していますが、より多くのかた
がたに読んでいただきたく、この
たび、希望される事業所、病院な
ども無料配布することとしまし
た。企業向けの情報も掲載してい
ますので、事業所内で回覧するな
ど、多くのみなさまに読んでい
ただければ幸いです。

申し込みは「こちら」

電話、ファクス、Eメールで、
事業所名、住所、必要部数(2部ま
で)、担当者名、電話番号を、広報
課へお知らせください。

申し込みは「こちら」
電話、ファクス、Eメールで、
事業所名、住所、必要部数(2部ま
で)、担当者名、電話番号を、広報
課へお知らせください。
お電話(866)2034
ファクス(866)2287
Eメール
ro-plpb@city.akita.jp

ふだん広報をご覧になって
いますか



男女共生・少子化に関する市民生活調査
(平成17年11月・回答者1,430人)